

平成26年度 印旛郡市小中学校理科作品展レポート



所狭しと並べられた作品の数々。
平成26年9月19日、
印旛郡市の小中学校から集まった
理科作品の審査会が行われました。



各小・中学校の
理科の先生方が中心となり
審査をしていきます。
県作品展への推薦も
兼ねているので
審査は非常にシビア。



こちらは科学論文の審査。研究内容もさることながら、
科学的に見て間違いがないかどうかチェックしていきます。

(例)「・・・やかんでお湯をわかした時にでる白い湯気は、水蒸気と言い、・・・」

↑×

水蒸気は目に見えないものなので、湯気 = 水蒸気ではありません。
こんな細かい部分も審査にひびくのです。厳しい・・・。

おや、作品で遊んでいる？

いえいえ、これも立派な科学工夫作品の審査。

科学的な仕組みをどう生かすか
だけでなく、きちんと動くことや
頑丈さも重要な審査基準。

とはいえ、子供たちの独創的な作品に、
しばし笑顔になる先生方も・・・。



こちらは今回金賞を受賞した中学生の作品。
調味料ポットの中に結束バンドを張ることで、
片手ですり切りができるようにしたアイデア作品。

まだまだ身近なところに、
作品のアイデアは眠っているものですね。
受賞者の中から、未来の発明家が生まれるかも・・・！

こちらは標本の審査。

ただ標本を並べるだけではなく、採集地のデータや
採集の様子を記録した報告書をつけたり、
自然の様子を紙粘土などで再現し
そこに標本を並べてジオラマ風にしたりと、
標本一つとってもその形は様々。
レベルの高い作品の数々に、審査は難航を極めます。



今回の審査会にあたり、千葉県教育庁北総教育事務所から
指導室長 江邨一男先生、主席指導主事 佐久間保男先生にお越しいただきました。
子供たちの作品を見ていただくとともに、
今後の理科教育のあり方についてご指導を頂きました。



こうして審査会も無事終了し、翌日、平成26年9月20日には一般公開が行われました。子供だけでなく、家族連れや各学校の先生方にもたくさんお越しいただき、本年度は536名の方にお越しいただきました。

たくさんのご参加、ありがとうございました！

